

## 新しい散歩ルート（その2）

大森海太

染井霊園のまわりを散策しながら住宅街を抜けると、色タイルを敷きつめた商店街に行きあたる。染井銀座と称するこの道は左右に蛇行しながら東に下り、やがて霜降橋で本郷通りと交差する。その先は谷田川通りと名前を変え、なおも大きく曲がりくねりながら西日暮里にかかる。

なぜこのように蛇行しているのか。たぶんこの道が川の流れのあとだからだろう。あとで調べてみると、かつて染井村のあたりで湧きだした水が谷田川という小川になって東から南に向かい、不忍池に流れ込んで最後は東京湾に注いだとのこと、霜降橋は谷田川を渡る橋のひとつだった。明治時代、川は埋められて暗渠となり、途中までは流れのとおりに道筋が残ったのであろう。

続いて谷中方面に入ると区画整理が進んだのか曲がりには少なく、名称もよみせ通りとなつて両側に賑やかな商店が並んでいる。

しばらく行くと道が細くなってまたもくねくねと蛇行。このあたりは昔染物屋が多かったので藍染通りといわれ、私が小学校の頃は旧町名の根津藍染町にクラスメートが住んでいた。

さらに歩き続けると言問通りにさしかかり、ここまで染井から約一時間、これもまた新しい散歩ルートの発見であった。

この谷田川や我が家の近所の小石川などのように、昔の江戸の川の多くは暗渠になってしまった。都市開発のためにはやむを得なかったのだろうが、考えてみると残念なことだ。ビルやマンションの間にも、曲がりくねった川の流れや左右の緑が残っていれば街にうるおいが生まれるのに、惜しいことをしたものである。

もつと怪しからんのは、最初の東京オリンピックピックのとき建造された都心の高速道路である。花のお江戸の日本橋の上をまたぎ、神田川の流れを覆って陽の当たらないドブ川にしてしまった。戦後の荒廃から立ち直り、世界の国際都市となるためには必須の開発だったのだが、失ったものも大きい。高速道路を地下に作りかえる計画があるそうだが、私の目の黒いうちに実現するかな？